



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和7年3月31日

内航船員の確保・育成対策 児童養護施設愛染寮にて出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、“児童養護施設愛染寮”において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日： 令和7年3月25日（火）

対象者： 児童養護施設愛染寮（児童 18名、施設職員 4名）

講師： 近畿内航船員対策協議会 白石 紗苗 氏

講義内容： 海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等：「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）

「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

児童養護施設の子ども達を対象に出前講座を実施しました！

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役会長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子どもたちの興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、令和7年3月25日（火）、奈良県生駒市の社会福祉法人宝山寺福祉事業団が運営する児童養護施設愛染寮において、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとした出前講座を実施し、入所児童18名と、施設職員4名が参加しました。

当日は、近畿内航船員対策協議会の構成員である白石海運（株）の白石代表取締役を講師として、講師手作りのパネルや、船の形をしたプラスチック製組み立てブロック玩具を用いて、わかりやすく説明を行いました。

講座では、人類が誕生した時から始まった船の歴史について説明を行い、海に囲まれた日本にとって、原材料や製品の輸出入を一度に大量に行うことができる船は、大変重要な輸送手段であることを伝えました。



また、講座は、子どもたちが積極的に参加できるように、「なぜ重い船が浮くのか」「バナナ専用船の他に何の専用船があるか」「日本の輸入で上位のものは何があるか」「海賊の撃退方法は何か」等、クイズを交えながら行われ、クイズが出題されるたびにたくさんの子ども達から手が挙がり、賑やかな雰囲気ですべて進んでいきました。

船に乗って働く人々は、主に「甲板」・「機関」・「司厨」の3つに分かれていて、「甲板」では、ブリッジに立って船を動かしていること、「機関」では、エンジン等の整備を行っていること、「司厨」では、船員の料理を作っていること、を伝えました。また、船員は美容師等と同じように国家資格であり、船員になるには、専門の学校があることを伝え、女性も船員として活躍していることを伝えました。さらに、船員の3ヶ月乗船後1ヶ月休暇等の勤務体系や、船員は船員法という法律で守られていること、船から見える景色がきれいなこと等を話しました。

最後に、講師から「身の回りにはたくさんの人が関わって出来ている。身の回りにはものがあるものがどのように出来ているか興味を持って生活してほしい。そうすれば、自分が将来したい仕事が早く見つけられると思います。また、船員さんという仕事にも興味を持ってもらえると嬉しいです。」とメッセージを送りました。



近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が生徒の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)